

# 御殿堰 大黒天便り



## ◆第七号◆



山形市中心市街を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど!』と思っていただけの内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第七号です。

## ◆明けましておめでとうございませう◆

二〇一二年を迎えました。みなさまどのようなお正月を迎えられましたか?

毎年一月二日に発表される『今年の漢字』、『今年の漢字』は、財団法人日本漢字能力検定協会が、毎年一月二日の『漢字の日』に発表している、その年の日本や世界の世相を表した漢字一字のことです。

昨年二〇一一年の漢字は『絆』。東日本大震災、台風などによる大雨被害、ニュージーランド地震、タイ洪水といった国内外で発生した自然災害などにより、家族や友といった身近でかけがえのない人物に対する絆を改めて感じたり、チームワークと信頼で女子ワールドカップで優勝したサッカー日本女子代表の姿に感動して勇気を得たりしたことなど、多くの日本人が絆の大切さを改めて感じた一年となりました。

二〇一二年はどのような一文字に表される年になるのでしょうか。多くの方がたくさんの方の笑顔で過ごせる年になりますように。本年も七日町御殿堰を宜しくお願致します。

## ◆啓翁桜キャンペーン二〇一二◆

近年、冬に咲く桜として注目を集めている山形特産の「啓翁桜」。この啓翁桜をより多くの方に知っていただくため、山形市の中心市街地に啓翁桜を展示して「桜咲くやまがた 冬のさくらキャンペーン」を開催致します。

### ■啓翁桜の展示

一月二十八日(土)～三月四日(日)

■私が名付けるさくらキャンペーン※  
新種の啓翁桜につける名前を募集します。命名者には、参加施設利用券と新種の桜の切り花を贈呈致します。

### ■「桜」雑「川柳」の募集※

桜や雑をテーマとした川柳を募集します。優秀作品受賞者には参加施設利用券と啓翁桜を贈呈致します。

### ■桜メニューの提供

参加施設の飲食店で、桜や春をテーマとした限定メニューを提供します。水の町屋御殿堰では、そば処庄司屋とクラシック・カフェにて桜の限定メニューをお楽しみいただけます。

### ■そば処庄司屋

桜海老天そば(セット)

一月二十八日(土)～三月四日(日)

### ■クラシック・カフェ

桜のチークケーキ桜のアイス添え

二月一日(水)～三月四日(日)

※新種啓翁桜の名前・桜や雑をテーマとした川柳の応募用紙は、各参加施設に備え付けを致します。



## ■啓翁桜

近年、お正月飾りとして桜の花を見かけるようになっていませんか?この冬に咲く桜、その名を啓翁桜と言い、一二月下旬～三月の真冬に咲く桜として注目を集めています。

啓翁桜とは、支那桜桃と彼岸桜を交配してつくられた桜です。啓翁桜は、いわゆる一般的な桜と違い太い幹はなく、形の良い枝が何本もまとまって一つの株を形成し、小さな薄紅色の花がたくさん咲き、さわやかな香りを漂わせます。普通なら四月上旬～中旬に開花しますが、本県の気候条件をうまく利用し、県園芸試験場で開発した促成栽培技術で冬期に開花させることができます。

桜は、秋になって気温が下がりはじめると休眠に入ります。休眠中に一定の低温(だいたい8度以下)にあたることで準備が整い、開花ができる状態を待ちます。休眠時間が五〇〇時間以上あれば開花させることができるため、時期を見計らい木全体が花芽で覆われるような状態(枝を切り出しハウスに入れ加温します。ハウスの温度は日中が二〇度、夜は一〇度ぐらいに調節。そうすることで、桜は春が来たか勘違いをして、真冬に開花するのです。山形県は秋の訪れが早いため、桜は早く休眠に入り、早く終わることができま。そのおかげで、お正月に合わせた開花も可能なのです。



## 山形あれこれ ⑬ 旗飴

初市は市神祭と呼ばれ、藩も関わったかなり大規模なものだったことがわかります。しかし祭りは古くは今日のような、多くの露店が立ち並ぶものではなかったようです。近郷の農家で作られた白髭(あさつき)・蕪・葱などの野菜類、それに多少の見せ物があった程度のようなです。

ただ紅花を煎餅状にし筵に干した様子を表現した、旗飴と呼ばれた菓子は最上紅花の産地ならではのものだったのでしよう。

半紙ほどの紙に二〇個余の紅をつけた飴をのせ、真中をヨシなどで挟み小旗状に仕立てられています。「子供の頃は沢山売られていて、飴のついた紙を裏から舌でぬらし湿らせて、飴をはがして食べたのだよ」という話を聞いたことがあります。

昭和三〇年代、不衛生であるとのことで今の切り飴に代わりましたが、郷愁からか最近また露店に現れだしました。

旗飴は紅花のむしろに紅餅を干しているところを型取ったものと言われ、山形特産の紅花が豊作で、紅の商いがうまくいくよう願いが込められているそうです。



次号の発行は二月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。